



## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

	1年	2年	3年
4月	思いっきり自己紹介	思いっきり自己紹介	思いっきり自己紹介
5月	海洋実習に向けて	校外学習に向けて	
6月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ☆地域学習(部落問題学習)            ・洞村学習            ・地域の人々との出会い他            《出会い その1》         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ☆部落問題学習            ・差別の現実に学ぶ            ・結婚差別など            《出会い その4》         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ☆進路学習            ・高校訪問に向けて            ・高校調べ         </div>
7月	(反戦平和学習)	(反戦平和学習)	(反戦平和学習)
8月			・高校等体験入学 オープンスクールに参加 体育大会に向けて
9月	体育大会に向けて	体育大会に向けて	体育大会に向けて
1月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ☆福祉ボランティア体験学習            ・障がい者問題学習            ・福祉ボランティア体験            《出会い その2》         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ☆職場体験学習            ・職業調べ            ・労働学習            ・職業人のナマの声を聞く            《出会い その5》         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ☆進路学習            ・将来を見すえて            ・夜間中学や定時制高校に学ぶ            ・奨学金制度を知る            ・あおぞらの生徒の進路について            ・ゲストティーチャーに学ぶ            《出会い その7》         </div>
11月			
12月		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ☆国際理解学習            ・韓国・朝鮮との出会い            ・アジアの国々との出会い            ・在日コリアンの現状            《出会い その6》         </div>	
1月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ☆命の学習            ・性教育            ・命について学ぶ            《出会い その3》         </div>		
2月		修学旅行に向けて ・修学旅行実施	畝中生活総括 ・文集づくり
3月			・答辞作成など

### 1. 本年度の研修テーマについて

#### ○本年度の研修テーマ

畝傍中学校の生徒たちに人権問題についての正しい理解と認識を培い、部落差別をはじめ、一切の差別をなくしていく意欲と行動力を持てるように育てる。

#### ○研修テーマにもとづく職員研修の有無と内容

- ・教育相談に関わって、不登校生の実態やカウンセラーとの連携の共通理解。
- ・“気になる生徒”の情報交換のための研修を5月に実施した。不登校生徒だけではなく、“特別な支援が必要と思われる生徒”を対象に特別支援コーディネーターの視点

を交えて校内で共通理解する研修。

- ・ 8月の職員研修（人権教育部主催）で、「洞村地域学習についての交流」というテーマで、1年生の先生3名から報告をしていただいた。また、本校OBの教頭先生のビデオ講演の楠原宗七についてのビデオ講演も視聴。さらに、この夏休みに全国生徒会サミット生徒を引率し、福島訪問した教員の報告も実施した。
- ・ 2月末に松原市立松原第三中学校を先進校研修として訪問予定。人権総合学習、学力保障、幼保小中連携などに関わるお話をうかがった。

## 2. 年間計画について

### (1) 目標にどれだけ迫ることができたか。

- ・ なかまづくりを基本に、班活動や班ノートを通して生徒どうしを繋ぐ取り組みなどを大切にしている。また、学年によっては、取り組みの内容、目標の違いはあるが、人権教育を基本とした総合的な学習を行っている。

### (2) 実施した内容について

#### ①教育を受ける権利を保障するための取り組み内容

##### ○基礎基本を定着させるための工夫

- ・ 数学科では、少人数学習でよりこまめな指導を行うと共に、国語科では各学年、低学力生徒を対象に抽出促進指導を行っている。読む・書くといった基本的な学習を中心に、「相手に何を伝えたいのか」「相手が何を言おうとしているのか」といった日常生活に必要となる力を身につけさせるのを目的としている。また、放課後に各学年で定期的に放課後学習を児童生徒支援教員が中心となって指導をしている。小学校の時につまづいた学習を取り戻すために漢字や計算、また、英語の単語等の練習などを行っている。

##### ・放課後の学力補充

畝傍中学校では、学習会（同和教育補充学級）や解放塾での取り組みを発展的に解消させ、人権教育部が中心になり、学力保障の取り組みを始めて、放課後学習に取り組んだ。今年度は、1・2学期は、定期テスト前が中心になっている。12月中旬からは3年生中心に実施し、土・日も含めて可能な限り、放課後学習を行った。進路選択を控えた3年生が、時には不安な気持ちやあせりを教師にぶつけながらも、ひざとひざを突き合わせて取り組む時間。地道な放課後学習が子どもたちの学力保障につながり、自己実現の一助になっている。

放課後学習については、本校教員のサポート及び、市生徒支援教員の役割と、檀原市子ども人権フォーラム事業の学習アドバイザーによる支援もたいへん大きな役割を果たしている。

##### ○生活課題、生徒指導上支援が必要な子どもたちへの取り組み内容

- ・ 就学保障（生活課題から支援を要する生徒への取り組み。長期欠席生徒への取り組み等）

担任・児童生徒支援教員・生徒指導部・教育相談部がスクールカウンセラーや関係機関と連携し合い、生活課題を抱えている生徒に対応している。基本的には、担任がそれぞれの学級でなかまづくりの取組を行うが、教室には入れない生徒に対しては、別室で個別に対応を行っている。また、長期欠席生徒に対しては、担任や児童生徒支援教員が定期的に家庭訪問をしたり、生徒の実態に応じて、学級の生徒との関係を切らない方向で、繋ぐ働きかけを行っている。

- ・ 学力向上プロジェクト（「学び」プロジェクトに名称変更）

学校の中で、授業に落ち着いて取り組むことができず、授業をエスケープする生

徒も現実には多く見られた。当然そうした生徒の多くが様々な生活課題を抱えており、低学力傾向の生徒が多い。そうした生徒を学校総体として、どう見ていくかが、一昨年度末よりいろんな場で、議論されることが増えていった。学校全体として、そうした生徒にどう関わっていくか、方針を整理するため、一昨年度末より、学力向上プロジェクト（現在、学びプロジェクトと改称）が立ち上げられた。数学科の3年生の少人数学習において、一つのクラスは、低学力の生徒をターゲットにしたクラス編成にすること。英語科も3年生においては、少人数学習に取り組むこと。全学年のあきの教員は、授業をエスケープしがちな生徒の対応にあたること。放課後学習を強化することなどが確認されている。試行錯誤しながらの取り組みでもあるが、学力のきびしい生徒に学校総体としてどうあたっていくかが、学校全体の課題として、議論されだしていることはたいへん大きな意義があった。

今年度は、不登校生、遅刻ぎみの生徒、授業を抜ける生徒、授業中の学習支援を必要とする生徒を中心に、「関われば効果のあると考えられる生徒。ちょっとの支援で前向きにいけそうな生徒」を対象にした。若干生徒の落ち着きも見られてきたので、基本は「学年で対応すること」とし、「時間内に座っているか。持ち物を持っているか。教科書をあけるか。ノートをとるか。」などの視点で、教室の中にいる生徒に対する支援体制を強化して頂いた。

## ②人権を尊重する意識・態度を育成するための取り組み内容

- ・人権に関するアンケート調査を行い、生徒の意識や実態を把握する。
- ・班活動を重視し、班ノートの充実。班で問題提起があれば、学活や終わりの会で話し合う。
- ・学級通信を発行し、班ノートの内容を載せたり、人権問題を意識させる内容を載せる。
- ・特別支援学級からの新聞を使い、「障がい者」について考えさせる。
- ・人権教育部からの通信を使い、人権意識をもたせる。

## (3) 各学年の取り組み

〔1年生〕

### ○部落問題学習

数年ぶりに洞村フィールドワークを実施。小学校の時にも学習しているので事前学習の資料の読み取りも熱心に聞くことができた。教員集団がおおくぼまちづくり館に行き、福西満先生の講義を受け、実際にフィールドワークをして学べた。3小は洞村学習を行っている。ただ、子どもたちの中には、「天皇の墓を見下ろす位置にあったので移転させられた。ひどい。」というイメージが強いであろう。移転をせまられたのは、事実であるが、その中で、中学校では、さらに進んで、「自主的献納」で村内の意見をまとめ、「それ相応の御下賜金」を得て、これを機に、みんな自分の土地・家をもち、むらの生活を改善しようとした人々の姿があったことをおさえさせたい。楠原宗吉さんの生き方に学び、洞村移転は決してマイナスの機会だけではなくピンチをチャンスに変えたという点に重点をおいた指導をしてきた。

### ○障がい者問題学習

ビデオ「風の旅人」で宇都宮さんの生き方に触れる。その後、車いすで生活されている根木慎志さんに車いすバスケットの講演をしていただく。根木さんの「出会った人と友達になる」という生き方は生徒たちの心をとらえる。恥ずかしいこと(苦手なこと)でも、一生懸命にやるということを教えていただく。その後、ダウン症のあべ健太さん

をVTRで観てその明るい人柄に生徒も心を動かされる。「スローだけど粘り強く繰り返しやる」と言うことを学ぶ。その後、本校出身である吉田隼人さんのお母さんの講演、現1年生の堀口伸也さんのお母さんの講演を聴く。校内をバリアフリーにし、根本さんを本校に招待できるようにするためにプロジェクトも立ちあげる。

#### ○命の学習

心友助産の助産院さんに来ていただいて、2月に講演をしていただき、自分のルーツを知り、命の重みを学習する予定。栄養教諭の先生から、“食”について学ぶ授業も行った。「1.17命を考える」「命のはじまり—Happy Birthday—」「いのちをいただく」紙芝居 VTR「天国のたかしくん」「87歳の助産師×大島優子」なども使って学習。

### [2年生]

#### ○部落問題学習

##### ・迷信、言い伝え

『夜に笛が吹くと、蛇がくる』というような言い伝えをみんなで出し合い、そこに科学的根拠があるかどうかを考える。話し合った内容をクラスで発表しあい、意見を交流する。昔から言い伝えられていることや迷信などを通して、噂の問題点やおかしさに気付く。

##### ・タイムトラベラーユキ

差別とは何かを知る。部落差別の歴史から、差別のおかしさを学び取り、人権感覚を身につける。第一場面から第五場面までの読み合わせ劇を行い、それぞれの場面に応じたワークシートを用いて、キヨメの仕事をしていた人たちの社会的立場の変化に気づき、差別を生み出してきたのが誰なのかに気付かせる。

#### ○職場体験

12月5日・6日の職場体験に向けて、9月から、事前学習を展開。自分の将来を展望しつつ、働くことの苦労や意義も学習しつつ、職場体験にのぞむ事前学習を進めた。

・働くことを通して、勤労の大変さ、働くということについて学ぶ。

・3年生の進路選択の時に、より多くの体験と進学先を考えられるように、職場体験を通して自分の世界観を広げる。

・働くことの大変さを知り、生徒たちが当たり前と感じている環境に感謝する。

10月に7名のゲストティーチャー(警察技官、インストラクター、夜間中学教師、消防士、看護師、パイロット、ツアーコンダクター)を呼んだ。希望から生徒を7つのグループに分け、それぞれの職業について話を聞いた。刺激を受け、将来の展望を明確に持った生徒もいた。11月には3年生の体験談を聞いた。アドバイスや「行って良かった」「良い経験になるから」という声を受け、やる気のなかった生徒が前向きになる姿勢も見られた。働くことの苦労や意義も学習しつつ、職場体験に向けて学習を進めた。

#### ○国際理解学習

本名を名のり、この社会で前向きに生きようとする在日コリアンの現状を学び、名前や国籍の違いを認めあい、それぞれの生き方・考え方を大切にして相互に理解しあうことの必要性を学ぶ。「ホームタウン 朴 英 美のまち」「情熱大陸 サッカー日本代表 李忠成」「卒業生 趙翔子さん講演」など

### [3年生]

#### ○進路学習

上級学校訪問を各学校が行うオープンキャンパスの中から各自が選んで参加をした。

そして、受検に対する意識を高めるため、この訪問の重要性について事前に学習を重ね、服装・頭髪等のチェックについてもきびしく指導した。また、学校によって時期が異なるため全体の動きや高校への対応など忙しい時期と重なり大変であった。

- ・進路学習に関わって、人権の視点からの学習  
畝傍中学校夜間学級の取り組みに学ぼう
  - ・畝傍中学校夜間学級のあゆみ
  - ・夜間学級で学習している方々
  - ・卒業生の作文 ・映画『学校』の視聴

#### ○復興支援プロジェクト

2011年3月11日におきた、東日本大震災。津波や原発事故で多くの被害が東北地方をおそいました。3年生の有志が集まった復興支援プロジェクトチームは、被災地のために何かできないかを3年生全クラスに呼びかけ、アクションを起こし復興の支援活動を行いました。

※これまでのアクションとしては、

- ・津波で大きな被害を受けた町にある岩手県大槌中学校へ100冊の本を届けようプロジェクトとして、PTAバザー等でビラを配り、家で読まなくなった本を集めました。
- ・福島県 蓬萊（ほうらい）中学校の復興支援グッズ販売の協力をしました。
- ・学年全体で復興ミサンガをつくり、バザーや地域のお祭りで販売しました。
- ・夏休みにおこなわれた、被災地『福島県』へ行き、全国生徒会サミットに参加しました。全国から集まった中学生と熟議をかわし『復興や防災・自分の生まれ育った町を誇りに思い、活性化させる』などのアクションプランをこれから畝傍中学校で実践していきました。

[全校]

#### ○「反戦平和いのち」の集い

7月18日（金）かしはら万葉ホールで、ナターシャ・グジーさんを招いて、バンドウーラ演奏・歌とチェルノブイリとフクシマに関わるお話も伺いました。ウクライナ生まれ。ナターシャさんは、6歳のとき、1986年4月26日未明に父親が勤務していたチェルノブイリ原発で爆発事故が発生し、原発からわずか3.5キロで被曝し、その後避難の生活を送ったことなどを語ってくれました。

#### ○人権フェスタ

かつて学習会の生徒の活動を基盤に開催されていた「人権フェスタ」を2年前に復活できました。今年度は、全国生徒会サミットへの参加と、東日本大震災で被害を受けた岩手県大槌中学校へ『100冊の本を届けようプロジェクト』の取り組みに始まった生徒による復興支援プロジェクトチームが中心になって、活動報告などを行いました。復興支援プロジェクトのメンバーは、人権フェスタで、全校生徒に向けて『考えるだけでなく行動していこう』と呼びかけました。

毎年行っている各学年の代表の生徒による人権作文発表会も行いました。各学年の代表者から、「幸せにいらしているということ」（1年）「うわさに惑わされない」（2年）「障がい者と人々」（3年）をテーマに、自らの決意を述べました。地域開放で保護者も鑑賞しました。最後に、復興支援プロジェクトの生徒たちから「みなさんもこの畝中を誇りに思い、全国に自慢できる学校にするために、どんなアクションを起こせるのか『考え』『行動』していきましょう。」とアピールが出されました。

#### ③人権が尊重される教育（確かな人権を身につけるための環境作り等）への取り組み内容

- ・人権を基盤にした生徒指導
- ・いじめをなくすための体制づくり－早期発見と早期対応
- ・不登校生や児童虐待に対して、関係機関とのケース会議
- ・教職員の人権意識を高める研修と生徒理解のための共通認識

### 3. 保・幼・小・中及び学年間の連携と指導の継続性のための取り組み内容

#### ①保・幼・小・中連絡会などの実施やその内容

- ・畝傍中学校校区ブロック研修会での保育園と幼稚園、小学校、中学校での人権学習の取り組みや生徒の交流
- ・3小学校との連絡会－6年生の授業参観と担任との交流

#### ②学年（年齢）間の連携やその内容

- ・校内人推委員会で年間計画を交流し、学年に応じた取り組みを行う。
- ・校内人推委員会を月1回開き、各学年の人権教育の計画の交流を行った。

### 4. 家庭・地域との連携等について（情報提供、連携の体制等）

#### ①P T A・校区（地区）人権教育推進協議会（地区懇への参加など）との連携について

- ・P T A主催の地区別懇談会
- ・小学校校区人推協主催の懇談会に参加。

#### ②授業参観や懇談会などでの人権学習の実施について

- ・10月31日に人権学習の授業参観と人権をテーマにしたP T A人権教育部の研修会。今年は「思春期ってなに？」として国松清子先生（臨床心理士・元奈良文化女子短期大学教授）を招いて研修。

#### （2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ ）